

## 令和 5 年高島市教育委員会第 4 回臨時会会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和 5 年 8 月 17 日（木）  
開会 午後 3 時 00 分 閉会 午後 4 時 25 分
- 2 開催場所 高島市役所新館 3 階 会議室 9・10・11・12
- 3 会議次第  
教育長あいさつ  
会議録署名委員の指名  
議第 44 号 令和 6 年度に小中学校において使用する教科用図書および小中学校の特別支援学級において使用する学校教育法附則第 9 条に規定する教科用図書の採択について  
報告第 3 号 高島市新旭水鳥観察センターの臨時休館について
- 4 出席委員  
上原教育長、田邊委員、川原林委員、橋本委員、高木委員
- 5 事務局出席者  
木下教育総務部長、饗庭教育指導部長、熊地教育総務部次長（教育総務課長取扱）、山本教育総務部調整担当監（図書館担当）、竹井社会教育課長、岡部学校教育課長、唐崎学校教育課参事、松岡教育総務課主任、末綱同課主査
- 6 会議を傍聴した者 10 人
- 7 議事の経過 別紙のとおり

## 議事の経過

開会 教育長が第4回臨時会の開会を宣言

会議録の署名委員の指名 田邊委員、橋本委員

議題の公開／非公開 全て公開

**議第44号 令和6年度に小中学校において使用する教科用図書および小中学校の特別支援学級において使用する学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について**

**【説明】 岡部学校教育課長**

本議題は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（昭和38年法律第182号）第13条の規定により、令和6年度に小中学校において使用する教科用図書および小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書を採択することにつき、議決を求めるものである。

資料をご覧いただきたい。これは、高島市教科用図書選定委員会からの答申を受け、採択案としたものである。P.2は、令和6年度に小学校において使用する教科用図書、P.3は、令和6年度に中学校において使用する教科用図書、P.4からP.6は、令和6年度に小学校の特別支援学級において使用する教科用図書、P.7からP.9は、令和6年度に中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の一覧である。

次に、別冊資料についてであるが、こちらは、高島市教科用図書選定委員会において調査研究員が調査研究した結果を一覧にまとめたものである。P.1からP.54までは小学校における令和6年度使用教科用図書調査研究結果の資料で、本市の調査研究員が小学校の各教科について観点別に調査研究した結果を一覧表にまとめたものである。

小学校および中学校の特別支援学級用の教科用図書に関しては、P.55からP.68に令和6年度使用教科用図書調査研究結果を掲載している。こちらについても、本市の調査研究員が調査研究した結果をまとめたものとなっている。

それでは、高島市教科用図書選定委員会の答申に係る選定と選定理由について説明する。

まずは、令和6年度に小学校において使用する教科用図書についてである。

「国語」は、「教育出版」である。

各単元に「見通しをもとう」が設定され、学習の進め方が簡潔に記載されている。特に「読むこと」の単元の「見通しをもとう」は、上下2段の構成で、上の段は、学習の流れが簡潔に書かれており、下の段は文章の構造の図解、読みを深めるための思考ツールや子どものつぶやきが記載されており、児童が自ら学習に向かい、読みを深められる工夫がされている。

「読むこと」の単元末にある「言葉を増やそう」では、教材内で扱われた言葉と関連のある言葉を提示し、語句作りや文作りを通して、語彙を増やせるように工夫されている。

本を紹介するコーナーでは、全ての本の表紙の写真とともに、児童を引きつけるあらすじが掲載されているのが特徴である。また、「ひろがる読書の世界」のページでは、日常生活において読書活動を活発に行うことができるよう、短時間で取り組める活動を複数紹介している。

5・6年生まで上下巻の分冊であるため、ゆったりとした紙面構成で見やすく、持ち運びもしや

すい。

「書写」は、「光村図書」である。

毛筆・硬筆の両方で文字を書く手本の動画が充実しており、授業中だけでなく、1人1台端末を持つ高島市の児童が、家庭で予習や復習をする際に役に立つと考える。

よい姿勢を維持できるように、書写体操、整理体操を動画で示し、書写学習の基本になるところを大切にしている工夫が見られる。

また、ユニバーサルデザインを意識した筆記用具図鑑が掲載されていて、児童の新たな発見を促す工夫が見られる。

そして、全学年で「ねこ」を統一したキャラクターとして設定しており、「ねこ」は注意を促すところに登場させることで正しく学ぶ工夫がされています。特に、1年生では、「ねこ」の動きに「すうっ」「ぴたっ」というような音を付けて、唱えながら学べることは効果的であると考えられる。

また、学習内容が見開き1ページになっていて、学習の流れが「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3つにまとまっている点も学習のしやすさに繋がると考えられる。

「書写を広げたい」のページでは、他教科や日常生活との関連が見られ、教科横断的な視点を含んだ構成・配列になっていて、文字を書く喜び、楽しさを実感し、達成感を得ることができるよう工夫されている。

さらに、1ページに掲載されている情報量が適量であり、どの児童も、無理なく学習することができると思われる。そして、特別支援教育への配慮としては、大切なことは大きく、その他の事例は小さく書き、大切なことが一目で分かるすっきりしたレイアウトを採用している点も評価できる。

「社会」は、「東京書籍」である。

挿絵や写真が見やすく、資料が豊富に掲載されている。また、二次元コードを読み込むことによって、利用できるデジタルコンテンツが充実している。

「まなび方コーナー」には、具体的な学習の技能や資料読み取りのポイントなど、学年に応じた学習方法が掲載されており、社会科の学習で必要な技能が指導しやすくなっている。

教科書に記載されている学習の流れが「つかむ・調べる・まとめる・いかす」となっており、学習段階ごとに活動内容や留意点を例示することで、見通しを持って問題解決的な学習に取り組むことができる。

学習過程の「いかす」を意識し、社会的事象に対し自分たちに何ができるのかを問いかけ、考えさせる場面がたくさんあり、地域社会の一員としての意識を高めることができる。

各学年、教科書の巻末に1年間で学んだ学習内容が掲載されており、学習の要点を押さえながら振り返りをするとともに、1年間の学習の足跡を確認することもできる。

「地図帳」は、「帝国書院」である。

初めて地図帳を使う3年生から6年生まで、学年や児童の発達段階に応じて使いやすい工夫がされている。

また、児童の主体的な学びを促す「トライ」「地図マスターへの道」が掲載されていることで、地図活用のスキルや社会科の知識を身につけ、学習を深めることができる。

自然、災害と防災、産業、貿易、SDGsなど、学年の学習内容に応じて活用できる多様な資料が掲載されている。

二次元コードがたくさん掲載され、読み取ることで、容易に都道府県ごとの多種多様な統計資料を調べることができるので、課題解決のために自ら学習を深めることができる。他社と比較すると

デジタルコンテンツの資料が豊富である。

「算数」は、「大日本図書」である。

基礎的・基本的な問題が多く掲載されており、1年生のみ別冊があるものの、他の学年は1冊にまとまっているので、振り返りや学び直しがしやすい。

各教科書には、はじめに前学年までの既習事項とその学年で学ぶ大切な事項が掲載されており、これまでに児童が扱い慣れている図や考え方が系統的に取り入れられている。

自ら新しい問題を見出し、主体的に学習に取り組む態度を養うために、題材や見通しを持たせるための吹き出しの工夫がある。

練習問題では、問題の種類が変わるごとに水色の印がつけられている。また、たしかめ問題の水色の印は、学習の状況に応じて柔軟に問題が選択できるように配慮され、児童の習熟度に合わせた指導に生かしやすい。

「理科」は、「東京書籍」である。

知識及び技能の項目については、問題解決を図る学習過程「学びのライン」により、学びの流れが分かりやすく視覚化されている。単元の導入でスムーズに学習に入れるよう、簡易的な体験や自然素材との触れ合いなどが仕込まれる「レッツトライ」が設定されている。関連する既習の単元の実験や観察の様子について問いを示し、デジタルコンテンツの動画を通して答えを確認する中で、単元の学習への興味関心を高めることができる。

思考力・判断力・表現力等の項目については、学年に応じた問題解決の場面で、視覚的にも分かりやすいキャラクターのコメントが児童の思考を促進する適切な支援になっている。また、デジタルコンテンツ「デジ活」が、児童が根拠をもって問題発見や結果をまとめるのに大変役立つものとなっている。

高島市教育大綱の項目については、デジタルコンテンツは、オリジナルの動画やシミュレーション教材が豊富で、学習過程「学びのライン」に対応した「理科ノート」も設けられており、児童の実態に応じた問題解決学習の展開に活用できる。

「生活科」は、「啓林館」である。

「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という単元構成となっていてそれが明示されている。また、導入、主な活動、表現活動等、単元のどの部分に当たるのかが分かりやすくなっている。単元は、児童の日常生活から始まり、ページ右下の「めぐりことば」で次のページへと誘い、振り返りには「ひろがるきもち」というコーナーがあり、次の課題へとつながっている。活動が単発にならず、児童の願いや思いが次の活動につながるように構成されている。

また、紙面の構成が整然として見やすくなっている。

「びっくりずかん」では、「種の不思議」や、「どんぐり大けんきゅう」があり、児童の興味を引く写真などが掲載されている。

「音楽」は、「教育芸術社」である。

学習目標や題材が決まった場所に大きく書かれており「何を目標に」「どのような活動を通して」「何を学ぶか」が一目でわかり、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる。指導者にとっても、児童に対して学習活動の見通しを示しやすい工夫がされている。

また、活動の手だてが全学年共通のマークで示されており、どのように学ぶか活動内容が分かりやすく、児童の主体的な活動を引き出すことができる。

言語活動を充実させるための活動例やアドバイスが、表情や仕草が分かる子どものイラストを用

いながらわかりやすく示されている。

音楽を形づくっている要素を絞って題材が設定されており、教材ごとに要素の働きを理解できるように配慮されている。

発達段階に応じて、低学年では、鑑賞で気付いたことを伝え合う活動、中学年では、考えを出し合いながら音楽をつくる活動、高学年では、作詞者、作曲者、演奏者がどのような工夫をしているかを見つけるための活動が設定されている。

低学年では、歌や打楽器、中学年では、リコーダーや金管楽器、木管楽器、高学年では、オーケストラやリズムアンサンブルなど、系統的な題材構成により、6年間の学びが積み重ねられている。

また、1、2年生で手遊び歌、わらべ歌、3年生で祭り囃子や締太鼓、4年生で琴や地域に伝わる音楽、5年生で民謡、琴と尺八、6年生で世界の音楽、雅楽が設定され、日本や世界の伝統音楽に親しめるよう配慮されている。

「図画工作」は、「開隆堂」である。

「タブレット端末で見てみよう」の「はじめに」の導入映像やリード文から、児童は発想を広げ、活動の見通しを持って活動することができる。さらに、色分けされた学習のめあてのキャラクターが児童に意識してほしい3つの観点を示すだけでなく活動のアドバイスをしてくれるので、本題材で身に付けたい力が大変分かりやすくなっている。

工作では、児童の思いに合わせて製作できるように、切り込みを入れて紙を飛び出させたり、はとめや割りピンを使って紙を動かしたりする仕組みについて複数の方法が掲載されている。

鑑賞学習や共同での造形遊びの後に自然な流れで話し合い活動が設定され、題材と題材のつながりを意識した指導計画を立てることができる。

さらに、「あわせて学ぼう」では関連のある他教科との関連が記載されているので、教科横断的な指導を進めることができる。

「家庭科」は、「開隆堂」である。

技能面でスモールステップを踏んでおり、時期にあった単元設定になっているなど、全体を通して児童の実態に合った内容になっている。

また、カラーユニバーサルデザインに配慮されていたり、資料が見開きで掲載されていたりするなど、資料の提示の仕方が非常にわかりやすくなっている。

作品例も身近で見通しを持って作成できるような工夫がされており、総じて児童の意欲を喚起し、主体的に学べる教科書になっている。

「保健」は、「東京書籍」である。

各時間、学習の進め方という形で「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」という学習過程が分かる紙面構成になっていて、学習の見通しを持ちやすくなっている。

また、写真、イラスト、記述の配置が考えられていて、視認性のよい紙面になっており、学びやすさへの工夫がなされている。

各時間のまとめのページでは、本時の内容と結び付けて次時の予告がなされており、学習の目的意識をつなげられるようになっていて、各学習内容と関連するデジタルコンテンツ、項末資料、他教科やSDGsとの関連が示されていて、実生活と結び付けながら、学習を深めることができるようになっている。

「外国語」は、「開隆堂」である。

「聞くこと」「話すこと」において、言語の使用場面が設定されている活動が多く、「～のために」と活動の目的が明記されているものも多くある。

自ら知りたくなる、話したくなる、聞きたくなるような題材や場面が設定してあり、児童が必要を感じて主体的に学習できるように工夫されている。

また、単元のゴールに向けて、ペアやグループ、クラス全体でのやり取りや発表というように、スモールステップでの言語活動が設定されており、様々な相手と伝え合ったり、伝える目的を変えたりしながら、「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しむことができるようになっている。

新しい語句や表現は Let's Listen や Let's Play などさまざまな活動を繰り返して身につけるようになっており、まとめの活動では、コミュニケーションを中心とした主体的・対話的な活動が設定されている。

「読むこと」「書くこと」に関しては、音声を聞きながら、慣れ親しんだ表現を指で追ったり、書いたりする活動が継続的に設定されており、音と文字の関係の気づきを促し、無理なく「書くこと」につなげるようになっている。

二次元コードを読み取って活用できるコンテンツやデジタル教科書が充実しており、児童が自分の興味・関心に合わせて学習を選択したり、自らの課題に応じて自分のペースで学習したりできるよう工夫されている。

「道徳」は、「日本文教出版」である。

現代的・社会的課題である「いじめ問題」「情報モラル」「SDGs」「多文化共生」「自己肯定感」「命の教育」「キャリア教育」などの様々なテーマについて、全学年で年間を通してバランスよく学べるよう配慮されている。

それらの中でも「いじめ問題」については、いじめを「間接的に扱った教材」、いじめを「直接的に扱った教材」、「いじめ防止コラム」を組み合わせ、いじめについて集中的に学習するいじめ防止ユニット「人との関わり」を各学年とも年間3回設定し、繰り返し、しっかりといじめについて考えることができるように工夫されている。

また、滋賀県に関わる教材が多く取り上げられており、こういった地域教材を通して学ぶことで、児童の学習意欲が高まったり、学びが深まったりすることが期待できる。

さらに、問題解決的な学習や体験的な学習の手法が、「ぐっとふかめる」のコーナーにおいて、絵や写真を用いて視覚的に分かりやすく示されている。

そして、思考が深まり、学びをより豊かなものにするための「道徳ノート」が、教科書とは別に用意されていることも評価できる。必要に応じて活用することで、個々の学びの状況や成長を見取りやすく、授業改善や評価に活かすことができる。

令和6年度に小学校において使用する教科用図書とその採択に係る理由についての説明は、以上である。

次に、中学校において使用する教科用図書について説明する。議案のP.3をご覧ください。令和6年度に中学校において使用する教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定等に基づき、令和2年度に採択された教科用図書と同一の教科用図書を採択することとなっている。

次に、P.55をご覧ください。令和6年度に小学校の特別支援学級において使用する学校教育法附則第9条に規定します教科用図書とその理由をご説明申し上げます。

教科書の選定の範囲は、通常の学級で使用されている文部科学省検定教科書、文部科学省著作本および一般図書の3種類となっている。

視覚的なハンディキャップを支援するための拡大教科書については、令和6年度に支援を要する生徒が在籍する可能性を考慮し、引き続き、一覧表に掲載している。

それでは、拡大教科書を除く一般図書について説明を行う。

国語科で選んだ一般図書は、個々の実態に応じて選択することができるよう配慮した。選んだ図書は、ひらがなや片仮名・漢字などが、児童の発達や特性に合わせて、段階的に指導できるよう工夫されている。文章表現が易しく、挿絵が多く掲載されて、児童の関心や意欲を高めることができると思われる。日常生活の身近な題材や、他の教科の内容と関連させながら学習することができるものもある。カード類については、文字に興味をもち、繰り返し読んだり言葉づくりをしたりすることができ、「物と文字」・「事象と文」を関連付けて学習できるため、入門期の教科用図書として有効であると考ええる。

書写は、一般図書としてカード類を挙げている。カードの上から直接フェルトペンで書いたり、くぼんだ文字を指で触ったりすることで文字の形を整えて書く反復練習を可能にするものである。文字カードや、それを組み合わせて作ったことばを手本にして書くこともできる。

社会科および地図は、児童の生活経験や知識の幅・内容等を考え、挙げている。

暮らしを支える仕事については、新たに「なりたい！わくわく！おしごとずかん」を追加した。児童が興味をもちそうな職業が扱われ、その職業の制服や仕事内容をイラストでわかりやすく説明している。また、キャリア教育の観点から、児童が自分の適性や新たな一面を知り、将来の仕事を考える時の一助となるように構成されている図書を選んだ。

歴史については、新たに「どこにいる？だれがいる？さがせ！日本の歴史」と「絵で見る日本の歴史」の2冊を追加した。児童が迷路や人探しをしながら、歴史への興味・関心が高まるよう工夫されているもの、人々、暮らし、建物、服装、農具、工具等から時代の特徴がよくわかるように描かれているものを選んだ。

産業や暮らしについては内容の幅が広く、新たに「地図」として追加した「地図でよくわかる都道府県大百科」と「イラストでわかる都道府県じてん」とともに学ぶことで理解しやすくなると思われる。

算数科は、基礎的な算数の概念を、日常生活と結びつけながら、系統的に学習できるように構成されているもの、また、具体物の挿絵や文章表現がわかりやすく、発達段階に即して指導できるように工夫されているものを選んだ。

理科は、生き物や自然、実験や観察に興味をもてる内容の一般図書を選んだ。表現が易しく、挿絵や写真を使って理解しやすい内容となっている。

科学実験の本については、「でんじろう先生のカッコいい！科学おもちゃ」「でんじろう先生の超ウケる実験ルーム」を追加した。写真やイラストで実験の方法がわかりやすく表現されており、身のまわりの物を使って実験をしながら、科学的な興味を育て知識を得ることができるよう工夫されている。

また、「しぜんとかがくのはっけん！366」は、児童がそれぞれの発達段階に合わせて、14のジャンルや季節、月ごとの事象から興味があることを選び、自然科学あそびを楽しむことができるものである。この本も写真やイラストが多く一目でわかりやすい紙面となっている。

生活科は、学校生活や地域社会の中で生きていくための基礎的な力を示しているカード類や本を

挙げている。生活単元学習や自立活動などの時間にも有効に活用できそうなものを選んだ。また、今年度は、著作本が生活科でも新しく発行されたため挙げている。

次に、一般図書で新しく追加した「しぜんて工作しよう」は、森や川などの身近な自然の中にある材料を探して集め、自分で遊ぶおもちゃを作る方法が示されている。

「こどもあんぜん図鑑」は、児童の行動範囲で起こりうる危険についてわかりやすく説明している。「やさしい」は、児童が興味をもって栽培活動が行えるよう、身近な野菜がどのようにして畑で育つかかわかりやすい絵で示されている。

音楽科は、交流授業に参加しない児童が自分の教室でいつでも音楽に親しめるものを選んだ。幅広く選曲されており、手遊びなどをしながら歌に親しめる内容になっている。

図画工作科は、検定本にも造形遊びがたくさん挙げられていますが、技能的に未熟で支援を要する児童もいるという実態がある。今回追加した「作ってみよう！リサイクル工作68」「小学生のわくわく工作」は、身近な材料を使って、児童が一人でも楽しみながら制作活動ができる内容の図書であると考え、選んだ。

家庭科は、新たに2冊の一般図書を追加した。「子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん」には、衣食住など生活の基礎知識や知恵が、親しみやすい挿絵や写真を使ってわかりやすくまとめられている。「ただしもちかたの絵本」は、日常生活の様々な場面が網羅され、生活に必要な基礎的知識と技能および、態度が身につくようにまとめられている。

保健は、自立活動と関連する学習内容が多く、特に自立活動の「健康の保持、環境の把握、身体の動きの理解等」にも通じる図書を選んだ。「きゅうきゅうばこ」では日常的に起こる身近なけがについて、対処の仕方をわかりやすいイラストと簡単な言葉で示してあり、実践につながるよう工夫されている。「性の絵本」「わたしのはなし」では、男女の体の仕組みについてわかりやすいイラストで説明されており、体や性について知り、自分の体と心を自分で守ることの大切さを学べる図書であると考え、選んだ。

外国語科は、自分の教室でいつでも外国語に親しめる本を挙げている。日常生活でよく使われる、身近で簡単な単語や文を、付属のCDやタッチペンで繰り返し聞いて、自分で発音を練習できるように工夫されている本を選んだ。

道徳科は、日常生活と照らし合わせながら考えられる物語文を扱った図書と、社会生活に必要な言語活動の充実が図れる言葉の絵本を挙げている。場面や状況を具体的にイメージしやすい挿絵や言葉が使われており、児童が思考を深められるような図書を選んだ。

次に、P.60 をご覧いただきたい。令和6年度に中学校の特別支援学級において使用する学校教育法附則第9条に規定される教科用図書とその理由をご説明する。

まず、文部科学省著作本については、国語科・数学科・音楽科があり、今回も使用する教科書として掲載している。視覚的なハンディキャップを支援するための拡大教科書については、令和6年度も支援を要する生徒が在籍する可能性を考慮し、引き続き、掲載している。

次に、拡大教科書以外の一般図書について説明する。

まず「国語科・書写」では、21冊の一般図書を挙げた。中学校の特別支援学級に在籍する生徒の言語能力には幅があり、特に国語科の学習においては、それぞれの生徒の能力や発達に応じた教科書を選択できるように配慮した。カード類は、生徒の能力や特性、発達に応じて多様な学習活動が展開できる。「ゆっくり学ぶ子のためのこくご」のシリーズは、日常生活の基礎・基本となる言葉を用いて、「読む力・書く力」を着実に身につけ、読書活動にもつながるような工夫がされている。



「ことばがいっぱい言葉図鑑」のシリーズは、見開きページ全面にたくさんのイラストとその名前などが表記されている。「にほんご」は、「読む」「書く」「より」話す「聞く」を優先して編集され、挿絵や写真も適切で読みやすくなっている。「くらしに役立つ国語」「ひとりだちするための国語」は、日常生活の中で目的や場に応じたコミュニケーションの練習ができる。

書写の学習のために挙げた「子どもの字がうまくなる練習ノート」は、筆圧が弱かったり、直線や曲線を描くことが苦手だったりする生徒の運筆練習に適している。

「社会科」「地図」では、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科書を選択できるよう配慮し、7冊を挙げた。

今回、新たに追加したのは、「ひとりだちするための社会」である。日常生活と関連づけながら、「税」や「法律」や「働くこと」を学べる内容となっており、公民的分野、地理的分野、歴史的分野と幅広く社会科の教科内容が取り扱われている。また、漢字にはルビがふられており、図表などの資料も見やすいので、生徒が進んで課題解決学習に取り組むことができる。

「数学科」では、6冊を挙げ、国語科と同様に生徒の能力に応じて教科書を幅広く選択できるよう配慮した。「ゆっくり学ぶ子のためのさんすう」のシリーズは、いずれも大きな文字とイラストや図を使ってわかりやすく記載され、発達段階に応じて学習できるよう工夫されており、基礎的な数学の概念を獲得するために最適であると考え。「くらしに役立つ数学」は「基礎編」と「生活編」に分かれており、演習問題を豊富に取り入れ、集中した学習ができるよう工夫されている。「さんすうだいすき あそぶ・つくる・しらべる 2年」は、身の回りのことについて挿絵を用いて取り上げており、視覚的な学習の展開が期待できる。「ひとりだちするための算数・数学」は長さや重さをはかる、カレンダーを読む、お金の計算をするなど、視覚的、体験的な学びにつながるよう工夫されている。

「理科」では、4冊の一般図書を挙げている。これらは、生活場面で出会う具体的なものを教材として取り上げ、精選・集約された内容となっている。新たに追加したのは2冊で、まず「小学館の図鑑NEO [新版] 科学の実験DVDつき」である。実験やあそび、工作等を通して科学的な力を付けることが期待でき、実験の仕方については「手順」「用意するもの」「注意点」「解説」などに分けて書かれているので、学習のねらいを達成できるよう配慮がされている。次に、「なるほど！理科図録」である。イラストが多くカラーで順序だてて掲載されており、また、生物・化学など幅広い分野について生徒が興味・関心をもって学習ができるように工夫されている。

いずれの本も、漢字にはルビがふられており、図やイラストなどの資料も見やすく、生徒自ら学習を進めやすい工夫がなされている。

「音楽科」は、新しく1冊を追加した。「くらしに役立つ音楽」は歌唱・器楽・創作・鑑賞がバランスよく取り上げられており、合唱曲、伝統的な曲、アニメやポップス、外国の曲など幅広いジャンルの曲を網羅した構成になっている。また、器楽の分野では、ギター、キーボード、ウクレレ、リコーダーなど多様な楽器の演奏の仕方がイラスト付きで理解しやすく興味を引くものとなっている。身近な材料で楽器を作る方法も掲載されており、生活の中で音楽を楽しむ工夫がなされている。

「美術科」も、新しく1冊を追加した。「美術資料」は、造形、描画、立体、日本の作品の鑑賞、世界の作品の鑑賞など幅広い分野が取り上げられており、イラスト付きの解説によって制作の手順をわかりやすく説明しており、自分の興味に応じて読み進めることができる。また、記載されている二次元コードをタブレットで読み込むことで、作業の手順や注意点が動画で確認できるよ

うになっているため、実物や実際の動きを確かめながら理解できる工夫がされている。

「保健体育科」も、新しく1冊を追加した。「くらしに役立つ保健体育」は、運動の仕方が簡単な文章と、イラストでわかりやすく解説されている。内容も運動・保健、さらに生活との関わりについての内容が掲載されており、日常生活に活用できる構成となっている。また、難しい漢字にはルビがふってあるため、自分で読み進むことができる工夫もされている。

「技術・家庭科」は、2冊の一般図書を追加した。まず、「夢を育む技術、職業－未来に向かって」である。木工や園芸、情報教育等の内容がバランスよく掲載されており、実生活と結びついた事柄が取り上げられているため、生活に役立つことが期待できる。また、写真やイラストが豊富で、文字が大きくルビがふってあるため、自分で読み進めやすく、理解しやすいと考える。もう1冊は、「くらしに役立つ家庭科」です。衣食住について、バランスよく掲載されており、写真やイラストが豊富で、わかりやすく工夫されている。また、この本においても実生活と結びついた事柄が多く、生活に役立つ内容となっている。

「英語科」は、2冊を追加した。まず、「新レインボーはじめての英語図鑑 CDつき」は日常生活の中で使われる身近な単語を中心に、場面ごとに取り扱う工夫がされている。イラストや日本語とともにカタカナで発音が表記されていて、さらに太字でアクセントが示されており、発音についての理解が深まると考えられる。また、「パンダで覚える英会話」は日常生活の中でよく使われる身近な会話が1場面1対話でわかりやすく掲載されている。パンダの写真や表情で、ニュアンスが伝わりやすい内容となっている。

「道徳」については、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと、道徳的諸価値についての理解を図ること、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てることという目標を踏まえ、生徒に応じた教科書を選択できるよう、一般図書を挙げた。

今回、追加したのは「くらしに役立つソーシャルスキル」である。道徳的な事柄だけでなく、自己表現、相手との関係の築き方など、生活で必要となるさまざまな内容が取り上げられている。また、社会の中で必要とされるルールやマナーを知ることができ、実際にできるようになるためのワークが設定されており、実生活に生かすことができる内容にもなっている。自立活動や進路学習などとの関連も期待できる。

新しい一般図書には、社会の変化に合わせた内容、きれいでわかりやすい写真や画像、ルビが振ってあることなど多くの工夫が見られる。

教科用図書の採択にあたっての資料説明は、以上である。

## 【質疑等】

○田邊委員

これほどの研究結果をわかりやすく報告していただき、感謝申し上げます。感想だが、特別支援学級における教科用図書選定にあたっては、全ての教科書において、これから先、子どもたちが成長するうえで日常生活に必要なルールやマナー、高島市の子どもたちがこれから先生き抜いていく上で役に立つであろうということを重視しながら選んでいただいていると感じている。

支援を必要とする子どもたちの困難さは様々であり、外見からは見えない、わからないような障がいを持っていることもある。支援を要する子どもたち一人一人にしっかりと支援するための教科用図書を選んでいただいたと思っているが、こういった観点から、担当課の意見を聞きたい。

#### ○岡部学校教育課長

支援学級の教科書は、幅広く本を探したという実態がある。委員仰せのとおり、同じ障がいがあっても程度が違うなど個々によって必要とされる教科書が異なってくる場合もある。できるだけそういった事情に順応できるようなかたちで、説明もさせていただいたが、幅広い選択肢がとれるように、選んでいただいたと思っている。ただし、従来から使用しているものでも絶版になってしまったものもあるというような中で、幅広い調査を行っていただき、選定していただいたと考えている。

#### ○川原林委員

たくさんの教科書があり、それぞれ特色や特徴がある。本市では小中一貫教育を中核に据えて推進しており、小学校と中学校の学びのつながりを意識して選定してもらっているというのはありがたい。特に、教育の重点では外国語教育の充実を掲げている。そのあたりはどういった視点をもって選定され、どのような学びの充実が期待できるか教えてもらいたい。

#### ○岡部学校教育課長

小中一貫教育の中で、特に外国語に関しては、今回提案させてもらった開隆堂の教科書は、話したくなる、聞きたくなるような題材や場面が設定しており、児童が必要を感じて主体的に学習できるように工夫されているところを評価している。児童が友だちやALTとのコミュニケーションを楽しみながら英語表現を学ぶことが期待できるものである。特に、本市の小中一貫における外国語教育では、音声言語に十分慣れ親しんだうえで、文字言語に慣れ親しむことを目指しているが、開隆堂の教科書は、その面でも配慮されている。具体的には、音声を聞きながら慣れ親しんだ表現を指で追ったり、書いたりする活動が継続的に設定されており、音と文字の関係の気づきを促し、無理なく書くことに繋げるよう配慮されている。3～4年生、5～6年生の外国語活動で使用する教科書として「話す」「聞く」「書く」「読む」「言語活動の配置」「分量」「難易度」が高島市の児童にとって適切であると調査研究員から報告も受けている。

また、中学校の英語科の学習を踏まえて扱う語句が精選され、意図的に繰り返し使用されており、中学校での学びを意識した指導を展開しやすくなっているとも聞いている。

#### ○橋本委員

2点伺いたい。

1点目は、保健の学習について、これから学校、社会、地域、長寿化といった中で、自分の課題を見つけて実践に結び付けていく力が必要であると考えている。今回選定されたものは実践に結び付けていく力を身に付けさせるという観点においてどうか。

2点目は、算数科において、3年生4年生、5年生6年生の段階でぐっと難しさが上がると感じているが、そういったつまづきへの個別の指導の中で、学びの系統性や連続性への対応はどうであるか。

#### ○岡部学校教育課長

1点目の保健に関するご質問について、東京書籍の教科書は、単元の導入に身近な生活場面の資料を配置し、自分の生活に即して課題発見できるよう工夫されている。また、友達と意見交流して

わかったことを記入する箇所や課題解決のための思考を整理する箇所を設けてあり、協働的な学習に取り組めるよう工夫されている。各学習内容と関連するデジタルコンテンツ、資料も充実しており、実生活と結びつけ、学習を深められるものと高く評価しているところ。

2点目の算数科に関するご質問について、大日本図書の教科書は、単元の始めには「新しい学習が始まるよ」が設定され、既習事項との関連を振り返ることができる。また、要所にリンクマークがあり、前の学年までの学習内容を確認できるデジタルコンテンツがある。以前であれば、違う学年の教科書を持ってくるなどして振り返るようなこともあったかと思うが、それが1冊の教科書の中で表記されているという良さがある。基礎的・基本的な問題が多く掲載されており、スモールステップでしっかりと基礎基本を身に付け、自ら学ぶ意欲を保ちながら、学習を進めることにも適している。教科書には、つまずきに対応するためのさまざまな配慮があるが、一番は、指導者が子の学習状況からつまずきを把握し、個に応じた学習支援をすることが必要だと考えている。

#### ○高木委員

例えば図画工作の研究結果に関する記述の中で「他教科との関連が記載されている」とある。この他教科とは具体的にどの教科で、どのように教科横断的な指導を想定されているのかももう少し詳しく教えてほしい。

#### ○岡部学校教育課長

教科横断的な指導は、図画工作に限らず、例えば、国語の教科書に掲載されている物語の絵を読み、お話の絵を描くといった活動等も含まれる。

今までの教科書であればそれが明示されておらず、教師の経験の中で、図画工作と国語、理科と家庭科とを関連付けるということを行っていたが、今回選定した教科書では、それらが明示されているという特徴がある。

#### ○田邊委員

全教科に関して、本市が推進する小中一貫教育、地域とともにある学校というものを考えながら選んでもらっていると思うが、そのあたりとの関連はどうか。

また、これからの社会において、子どもたちが成長して社会に出ていく中で、道徳科、国語科の担う役割は大きいと思うが、いじめの問題やいのちの大切さを学んでいける教材になっているのかということをお願いしたい。

SDGs等の社会的課題等もしっかりと考慮しながら選定していただいていてありがたい。

#### ○岡部学校教育課長

地域とのつながり、地域とともにある学校づくりの考え方は、今後も大切にしていきたいもの。地域教材、身近な教材というのは選択肢の一つであり、必ずしもそれが多いため選定に至ったというのではなく、様々な観点の中で、それも一つの要素として選定しているところ。扱われている教科書の中で身近なテーマと教材を関連づけることができる教科書もあるので、それを意識した指導をしていきたいと考えている。

そんな中でも、いのちの大切さやSDGs等のテーマは、道徳に限らず大きな範囲で取り扱わなければならないものであると認識している。特に、道徳の教科書に関しては、特に委員仰せの現代

的・社会的問題でもある生命の尊厳や情報モラル、いじめ問題等、全学年通じてバランスよく学べる内容になっているという調査研究結果からわかった。

また、これらのテーマを他所事ではなく、自分事として捉えて、対話的に学んだり深めたりすることが大切だが、その点においても、日本文教出版の教科書は、問題解決的な学習や体験的な学習の手法が視覚的にわかりやすく示されており、多様な意見を交流できるような学習活動を仕組みやすくなっているという研究結果がある。また、道徳ノートを活用することにより、学びの成長や成長の振り返りがしやすく、教師は評価や授業改善に生かし、児童は、よりよく生きようとする実践意欲を高めることができる。教師の使いやすさも大事な観点かと思うので、両方の側面から選んだところである。

**【採 決】 挙手全員により可決**

## **報告第11号 高島市新旭水鳥観察センターの臨時休館について**

**【説 明】 竹井社会教育課長**

本件は、高島市新旭水鳥観察センターの指定管理者であるNPO法人高島野鳥の会から、当該施設の設置および管理に関する条例第11条の規定に基づき、当該施設を臨時に休館する旨の申請書が提出され、これを承認したので、その内容について報告するものである。

臨時休館を行う日は、令和5年8月21日、23日、24日である。休館理由は、施設内の清掃および書籍やはく製等の整理、点検を行うためである。利用者への周知方法は、施設のホームページ、防災行政無線、休館予告ポスターの掲示による。

報告は以上である。

**【質疑等】**

○田邊委員

今は、夏休み期間中かと思うが、来場者への影響はどの程度か。

○竹井社会教育課長

手元に資料がないが、水鳥は基本的に冬場に多く見られる。来場者への影響等も踏まえた上で、この時期となっている。

**【採 決】 承認**

**閉会 教育長が第4回臨時会の閉会を宣言**